

# 東京科学大学歯科東京同窓会 学校歯科保健部講演会のお知らせ

東京科学大学歯科東京同窓会  
会長 長井 博昭  
副会長 佐藤 和義  
常務理事 中村 道  
常務理事 山室 直子

本同窓会学校歯科保健部では、下記の要領で講演会を企画いたしました。学校歯科保健活動に携わるすべての先生にお勧めです。同窓会員以外の先生もご参加いただけますので、お誘い合わせのうえご参加ください。

## 演題：「小児の口腔機能管理－口腔機能発達不全症の対応－」

講師：千葉歯科医院 院長 浜野美幸 先生

【略歴】 1986年 東京歯科大学卒業 1990年 東京歯科大学大学院（小児歯科）修了  
病院、歯科医院勤務を経て 2003年 千葉歯科医院 院長 現在に至る



生涯にわたり健康に過ごすためには、口の健康が欠かせないことがわかっています。生命維持を担う「食べる・呼吸する機能」やコミュニケーションに関する「話す・表情を作る機能」は口腔機能によるものです。成人期や高齢期の口腔機能低下の防止には、小児期に適切に口腔機能を育成することが大切です。しかし近年、「食べるのが遅い」、「噛まずに丸のみしている」などの食事の問題、「口をあけたままにしている（お口ぽかん）」「ことばがはっきりしない」などの様々な問題が散見されています。特に、口唇閉鎖不全は約3割の子供にみられ、小児期は顎頬面の骨格系および筋系の成長発達期であるため歯列・咬合の形態的な異常を引き起こし、軟組織にまで悪影響が及びます。

口唇閉鎖不全は、咀嚼・嚥下、発音など、全ての口腔機能発達不全につながることからも早期発見し、適切な対応が望まれます。対応としては、形態・機能・心理の3つの側面から捉え、生活支援や運動機能訓練を行いながら継続的に口腔機能管理を行いますが、本疾患は、自覚症状に乏しいため、医療者からの気付きが必要です。気付く機会は診察だけでなく、乳幼児歯科健康診査や学校歯科健康診断もあります。今年はじめに歯科の参画が決まりました5歳児健診についても触れたいと思います。さらに、子供たちの成育環境の現況から考えますと、園や学校、地域などで歯科保健教育を他専門職種と連携して行い、子供たちの成育環境を整えることが肝要です。歯科の情報を保育・教育・医療・福祉関係者などと共有し、協働して歯科保健教育を行うなど、多角的なアプローチが必要と考えています。ぜひ、皆様から取り組みを拡げていただきたいと思います。

〈開催日〉 令和7年11月26日（水） 19:00～

〈場所〉 東京科学大学 湯島キャンパス 1号館9階 特別講堂および同時web配信予定

〈会費〉 無料 〈定員〉 50名 〈締切日〉 令和7年11月20日（木）

〈申込方法〉 QRコードからお申し込みください（申込確認後、受講確認メールをいたします）。

問い合わせ先：東京科学大学歯科東京同窓会  
TEL & FAX: 03-3815-1851 / E-mail: tejima@ikashika-dent.com

